

	保育所等利用待機児童数ゼロ “5年連続” 達成
と き	4月25日（金）発表
区は、4月1日現在、保育所等利用待機児童数ゼロを達成した。待機児童数ゼロは、令和3年から数えて5年連続での達成となった。 区ではこれまで、全国初となる区独自の幼保一元化施設である「練馬こども園」の創設、待機児童ゼロ作戦による認可保育所等の新設等に取り組み、この11年間で全国トップクラスとなる約9,400人の定員増を実現するとともに、1・2歳児の1年保育事業にも取り組んできた。 5年連続の待機児童数ゼロの実現を受けて、前川 耀男（まえかわ あきお）練馬区長は、「区長就任以来、保育行政は最も力を注いできた政策。認可保育所の大幅定員増、区独自の幼保一元化施設『練馬こども園』の創設などにより、5年連続で、今年も待機児童ゼロを達成することが出来た。保育所は、社会を支えるインフラ。育児休業制度の取得増や期間の長期化など、0歳児の保育需要が減少し、1・2歳児の保育需要が増加している。引き続き、変化する保護者ニーズに応えられるよう、取り組んでいく。」とコメントした。	

【練馬区の待機児童対策の歩み】

区の保育需要は増加を続け、平成26年（2014）年4月の待機児童数は487人に上った。

前川区長は、平成26年4月の就任以降、待機児童の解消を区政の最重要課題の一つに掲げ、認可保育所や地域型保育事業などの多様な保育施設の誘致に加え、平成28年度から区独自の幼保一元化施設である「練馬こども園」を創設し、新規整備・定員拡大を積極的に推進。また、1・2歳児の保育需要に対するセーフティネットとなる「1歳児1年保育事業」、「2歳児1年保育事業」を区独自に実施。こうした取組により、平成26年から令和7年までの11年間で約9,400人の定員増を図り、5年連続で国要領に基づく算定基準での待機児童数ゼロを達成した。

〔区独自の幼保一元化施設「練馬こども園」〕

春・夏・冬休みを含む通年で、9時間から11時間の預かり保育を実施する私立幼稚園を「練馬こども園」として認定

〔1歳児1年保育事業、2歳児1年保育事業〕

1・2歳児を対象に、園の空き部屋等を活用し、最大1年間の保育を実施

